

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	こども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
1	38～46ページ 75ページ	「取組みの方向1」の全体が、乳幼児・妊産婦を主な対象としてきめ細かい施策が挙げられており頼もしい。しかしながら、父親への働きかけを見ると、「プレパパママ教室」以外ははっきりと父親を意識するものはないようにとらえられる。いくつかの取組みに「保護者」とあるが、母親が参加することが多いのではないだろうか？平日開催であったり、あるいは父親が入りにくい内容であったりすると、母親のためのプログラムになる。父親が積極的に育児の知識を得て主体的に育児にかかわっていきけるような働きかけ(施策)があると、母親の孤立感をなくし夫婦間のコミュニケーションがスムーズになるのではないかと考える。父親同士の交流機会(ネットワークづくり)もあると面白いと考えるので、工夫して頂きたい。	子ども政策課	土日に開館している多世代交流館等での、父親も参加しやすいプログラムを含め、今後の事業展開の参考とさせていただきます。	無				
2	44ページ	良いイベントや活動の多さはありがたいのですが、知らない人がとにかく多い。書いている私も、例えば「三田市公式LINE」を知らなかったのも、もっと周知して欲しい。	子ども政策課	子育てサービス等の効果的な情報発信のあり方について、三田市公式LINEなど、多様な媒体やデジタルツール等を活用した、分かりやすい情報発信や相談支援のあり方について先進事例を研究し、取組みの強化を図ります。	有	○	44ページ 方向性を修正	○	46ページ 取組項目表 下から2つめの欄
3	46ページ 取組項目表 上から3つめの欄	地域子育て支援拠点のひとつ、地域子育て支援センターについてですが、他の3か所と違って、スタッフがその場に居るわけではないので、あまり行かない、行きにくいという話を度々聞きました。相談ごとがしにくく、気軽に話すなら他施設だそうです。	子ども政策課	地域子育て支援拠点(子育て交流ひろば)は、4つの運営団体の特色を活かし、親子のふれあいや相談の場を提供しています。ご意見を参考とさせていただきます、より良いひろば運営に取り組んでまいります。	無				
4	46ページ 取組項目表 下から5つめの欄	「さんだ子育てハンドブック」の内容は、かなり素晴らしく役に立ちましたが、つわりでしんどい時などに目を通すのは難しく、結局内容を知れたのは多世代交流館でたまたま親しくなれたスタッフさん経由でした。	子ども政策課	ご意見を参考とさせていただきます、「さんだ子育てハンドブック」の効果的な案内方法やその他多様な情報提供に取り組んでまいります。	無				
5	48ページ 取組項目表 下から2つめの欄	日本の性教育が遅れている。日本の性教育は、主に体育や保健体育の授業内で「体と発達」を中心に学ばれることが多くあります。 しかし、2009年にユネスコは「包括的性教育(Comprehensive Sexuality Education)」という概念を掲げ、ジェンダー平等や性の多様性を含む人権尊重を基盤とした、8つのキーコンセプトに基づく性教育を提唱しています。この夏私の所属団体のEthical×sandaで行った性教育は大変好評で第二弾も行われました。こうした外部講師を招いて適切な形で性教育を積極的にを行い、大切な自分の身体をどのように守るのか、自分は大切に育てられて来たんだ、という土台の元に、三田市でも是非、性教育に積極的に取り組んで頂きたいです。	学校教育課	性教育は、体育や保健体育のみならず、道徳や特別活動をはじめ、学校の教育活動全体を通じて取り組むことが重要です。外部講師につきましては、必要に応じて招聘するなど、引き続き、性教育の充実に取り組んでまいります。	無				
6	48ページ 取組項目表 下から1つめの欄	審議会内でも申し上げましたが、食育とは材料を切って食べる所から始まるのではなく、食材を作るところから始まると思います。農村部地域の子供達には良いかもしれませんが、ニュータウン地域の子供達はお米がどうやってできるのか、養鶏や養豚はどうなっているのか、知る由もありません。第一次産業を担う若者の減少は深刻で日本の大きな課題の一つです。三田という豊かな地の利を生かした食育活動を行い、どうか子供達に農家はかっこいい！と思わせるような活動の工夫をお願い致します。特色ある市政運営が人口の流出を食い止め、他地域からの転入に繋がる事は明白です。	子ども政策課 健康増進課 農業振興課	地域の農業と触れあう機会等も含めた「食育」の推進については、関連計画である「三田市食育推進計画」において推進しています。「多世代交流館での食育に関するセミナー、調理講座の開催」に関する取組みとして、「地場野菜等を使うなどの地産地消や、「食」と「農」の関わりを考え、「食」の大切さや楽しさ、農業のすばらしさを体験的に学べる機会を提供します。」に修正します。	有			○	48ページ 取組項目表 下から1つめの欄

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	こども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
7	49ページ 取組項目表 下から2つめ の欄	多世代交流館「シニア・ユースひろば」の対象は大学生や親子等も多いので、「全世代」にしていた きたいです。	子ども政策課	全世代を対象とする施設ではありますが、施設の趣旨や、子ども・若者が利用できることを分かりやすく伝えるため、「小学生、中学生、高校生からシニア世代等」と記載を修正します。	有			○	49ページ 取組項目表 下から2つめ の欄 53ページ 取組項目表 上から2つめ の欄
8	49ページ 取組項目表 下から1つめ の欄 73ページ 取組項目表 上から1つめ の欄	地域で居場所づくりに取り組んでいるのは、子ども食堂だけではなくありません。家庭文庫活動等、ほかにも多々あります。子ども食堂だけへの支援は、地域で子どもの居場所づくりをしている団体へとの差別化になります。子ども食堂への記述は同じような内容で3か所程あったと思います。	子ども政策課	ご意見のとおり、地域で居場所づくりに取り組んでおられる団体は多数あります。今後は、子どもの安心・安全や貧困対策の視点からも、多様な活動団体等との連携や協働につながる環境づくりが必要と考えております。その旨を踏まえ、計画の記載を修正します。	有	○	49ページ 方向性を修正 73ページ 方向性を修正	○	49ページ 取組項目表 下から1つめ の欄を修正 73ページ 取組項目表 上から1つめ の欄を修正
9	49ページ	放課後児童クラブや夏休みに預けられる施設も、実際に働かされているママさん達からは、時間・お弁当の有無、登校のさせ方などで不都合があるようです。現場の声を届けやすいシステムも欲しい(出欠確認をメールやLINEではなくアプリにするなど)。	子ども育成課	市の放課後児童クラブでは、アプリ「安心でんしよぼと」を令和5年度に導入し、出欠確認のほか保護者への様々なお知らせ等に活用しています。ご意見を参考とし、今後も児童クラブと保護者とのスムーズな連絡調整に努めます。	無				
10	50ページ	不登校問題については、まずは登校ありき、といつまでも考えている先生方への教育が第一であろうかと思えます。北欧では先生達はみんな子どもの幸せの為に仕事をしています。学業や学校に来る事なんかではありません。偏った教師の考え方が如何に生徒や保護者を苦しめているかの研修が急務であると考えます。また、教育委員会や学校とフリースクールなどの民間の団体の連携による支援が教育確保均等法で挙げられていますが、連携するだけは民間の負担が大きくなるばかりです。通う生徒側、支える民間側への経済的支援も県や自治体として積極的に検討をお願いします。	学校教育課 子ども育成課	(学校教育課) 市としても、不登校は「問題行動ではない」「誰にでも起こり得ることである」ということを基本理念として、一人一人のニーズに応じた支援を行うことを推進しております。児童生徒が学びたいと思えるような学校づくりを目指すと同時に、多様な学びの場や形を検討できるよう、教職員へ周知を図ってまいります。 (子ども育成課) フリースクールの実施内容や運営方針・体制などは多種多様であり、公的な財政的支援を行う場合には、公益性を判断するためにも、補助対象となるフリースクールの要件を定めることが必要であり、フリースクールの長所を損なわない制度設計が求められます。また、利用者の費用負担に対する支援については、不登校の児童生徒であってもフリースクールを利用する児童生徒は限られていることから、不登校対策としての効果の見極め、あるいは、他の児童生徒とのバランス等についても配慮する必要など様々な課題もあります。そのため財政的補助・支援については、フリースクールの有用性・可能性とともに前述の課題等も勘案しながら研究していく必要があると考えます。	無				
11	51ページ 取組項目表 下から1つめ の欄	「環境浄化事業」について。昨今の子どもをとりまく環境からネットの世界を切り離すことはできない。不適切な表現も悪意のある大人からの誘惑もネットからのものが多い。「浄化」はできなくとも、そうした環境にあっても身を守ることができるよう、情報リテラシー教育、保護者への啓発、警察と連携を取り最新の犯罪にも対応できるよう情報提供や働きかけが必要。教育現場だけに任せきりにすべきではないと考える。	子ども育成課	ネットトラブルから子どもたちを守る取り組みの重要性については認識しており、50ページの青少年健全育成事業の中で「学校・警察・補導員連絡会」などで研修を行ってきました。今後は子どもたちに向けた啓発などにも注力していきたいと考えています。	有			○	50ページ 取組項目表 下から1つめ の欄

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	子ども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
12	57ページ、60ページ 読書環境に関する箇所	<p>全体を読み、子どもの読書環境の充実、整備についての記述が少なく感じました。57ページ、60ページに少し記述があるだけで、それらは従来の方針のままです。学校図書室は子どもが本と出会う場として一番大切な場であり、居場所でもあり、最も充実していなければならない場です。学校図書館司書が一人で何校かを回り回すのではなく、各学校に専任の学校図書館司書の配置を実現してください。</p> <p>三田市の大きな特色となり、子どもが育つ環境に力を入れていることがアピールされます。また、学校と図書館との連携も必要ではないでしょうか。</p> <p>私の知る限りにおいてですが、丹波篠山市や多可町は図書館からの働きかけで、学校との連携を深めています。丹波篠山市では全ての小学校へ図書館員が出向いて子どもたちに本の紹介をしています。多可町では、教師の夏休み研修を図書館で開催し、読書の大切さについて講座を開催しています。</p> <p>子どもの教育に関わる官同士が繋がりを作ることも、それぞれの立場から子どもたちが置かれている状況を共有し且つ協力し、子どもが育ち生きる環境をより良くするために必要なのではないのでしょうか。</p> <p>子どもが出会う図書を選ぶのには専門知識が必要です。ボランティアはあくまで補助として捉え、るべきではないでしょうか。</p> <p>民営化された図書館と官がどう連携を持つのか、難しい問題かもしれませんが、図書館司書としての専門性を政策に生かしていく事は大切だと思います。</p>	教育研修所 文化スポーツ課	<p>(教育研修所) 三田市では、小学校に10名、中学校には令和6年度より1名の学校司書を、全20小学校、2中学校に配置しています。学校司書は、学校図書館にて、子どもや教職員と本を結ぶ専門の職員です。「読書と向き合い、読書を楽しむ子どもの姿」を目指し、学校図書館の環境整備や読書活動の推進に取り組んでいます。</p> <p>学校図書館の環境整備では、居心地よく使いやすい学校図書館を目指し、蔵書の整理や選定への助言、季節や行事、学習に応じた展示や特設コーナーの設置などを行っています。読書活動の推進では、子どもの発達段階や興味・関心、読書の幅を広げることに応じた本を選んだり(選書)、読み聞かせなどを行っています。</p> <p>市立図書館との連携では、学習に必要な資料の団体貸出として令和5年度に小学校8校で21回834冊、中学校2校で2回66冊の活用がありました。また、市立図書館見学による利用の仕方の学習に小学校2校162人が取り組みました。さらに、市立図書館職員による学校司書への選書や読み聞かせの研修で専門性の向上も図っています。今後、学校司書の配置や市立図書館との連携のさらなる充実に向けて、ご意見を参考とさせていただきます。</p> <p>(文化スポーツ課) 市立図書館では、学校との連携により、調べる学習コンクールの開催や出張移動図書館による読み聞かせ・調べる学習の支援、電子図書館の利用支援等を行っています。また、学校図書館からの要望に応じて、本の修理や調べ学習用ツールの作成方法の研修を実施してきたところです。引き続き、定期的に学校の連絡会等に参加することにより、図書館利用のPRや学校図書館のニーズの把握に努めます。</p>	無				
13	59ページ	<p>学生時代に様々な職種にふれることは職業選択において非常に有益だと思います。子どもが思い描く夢と経済活動や実務としての職業選択には乖離があるように感じており、選択肢を増やすことも子どもの可能性と方向性を広げることにつながります。</p> <p>トライやるウィークは非常に有意義な体験ですが、しかし体験できる職種は1つか2つです。地域の様々な職種の働く大人をゲストスピーカーとし、仕事や社会を学生に伝えられるような機会があれば面白いと思います。</p>	学校教育課	<p>中学校ではトライやる・ウィークの事前指導や事後指導において、様々な職種の方を講師として学校に招き、仕事の内容について講話をいただいたり、体験活動を実施したりしています。また、小学校では、地域での農業体験をはじめ、市内の企業巡りや、企業からの出前授業でモノづくり体験などを行っています。今後も、様々な機会を通じ、学校と学校外の関係者で共通理解を図り、「地域の教育力」を活用したキャリア教育を推進してまいります。</p>	無				
14	59ページ	<p>夏休みなどの長期休暇中、子どもの居場所の充実が保護者目線でも子どもの情緒的にも重要です。夏休みになると母親は子どもに指示したり叱りがち…とはよく聞く話で、エビデンスは持ち合わせていませんが、結局在宅児はストレスが多いようです。</p> <p>令和の寺子屋のように在宅児が宿題をしたり給食を提供してもらえたり、様々な交流や体験ができるような、学校でもなく塾でもなく多様な放課後児童クラブの民営拡充が望まれます。就学前の子どもの一時預かり事業のようなイメージです。</p>	子ども育成課	<p>市の放課後児童クラブは、日々の生活習慣を身に付け成長を促す場として通年利用を前提としていることから、夏休みなどに限った利用はできません。一方で、夏休みに対する保護者ニーズもあることから、ご意見を参考にしながら、民間事業者の活用を図ります。</p>	無				

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	子ども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
15	61ページ	「三田スモカモス・プロジェクト」市内事業者が抱える課題をとりあげているとのこと、おもしろい取り組みだ。認知度がまだ低いと感じる。事業者の幅を広げるだけでなく、地域課題に向き合う団体(たとえば自治会や放課後子ども教室)にもつないでいただけないだろうかと思う。中学生にも意見表明の場や地域社会と向き合う機会をもっとあればと思う。トライやる以外に、中学校のコミュニティスクール化をもっと進め、日頃から地域の人と関わり体験する場を設けてはどうだろうか。地域行事にももっと積極的に参加できるよう、学校側も地域の情報をしっかりキャッチしてほしい。	移住定住促進課 学校教育課	(移住定住促進課) 「三田スモカモス・プロジェクト」の取り組みについては、対象年齢の拡充や地域団体との連携も視野に今後の事業展開を検討しています。子ども・未来部の取り組みとも連携し、子どもの学びや体験活動が一連の流れとなり、コミュニティづくりにつなげていくことが重要であると認識しています。 (学校教育課) 市内8中学校はすでに学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして学校と家庭、地域との連携と協働の活性化に取り組んでいます。特に中学生の地域貢献の機会を仕組みながら双方向の連携が徐々に具体化が図られており、今後も学校の実態に応じて地域との連携の活性化に取り組んでまいります。	無				
16	69ページ	三田市内でも外国の方が増えており、様々な困りごとや要望があるはず。国際交流プラザが主な窓口となりそうだが、拾い上げた情報を行政や学校、自治会と共有し支援をつないでいくシステムはあるのだろうか。子どもは学校や保育所幼稚園で外とつながる機会はあるが、その家族の孤立についても配慮が必要と考える	人権共生推進課 子ども家庭課 学校教育課	外国にルーツのある子どもやご家庭について、相談があった場合、本人の同意の下、必要な機関へつないでいきます。引き続き、関係機関と協力・連携し、個々の家庭の状況に沿った支援に取り組んでまいります。	無				
17	75ページ	親育ちへの支援強化で対象になっているのが就学前と小学生の保護者だけなのはおかしいと思います。思春期を迎えた子どもの教育は難しく、学校への保護者の参加も無いことから、保護者の横の繋がりが構築されず「孤育て」になりやすいのはこの時期です。中高生の親へのサポートや支援をもっと充実する事で若者の不登校問題や自殺といった深刻な問題も未然に防げるものもあるのでは、と親の会を主催していて強く感じます。育てるのが難しい子どもの親へのサポート強化をお願い致します。	子ども育成課	不登校等の問題については電話、メールなどによる「青少年の悩み相談」において中高生の保護者からの相談に対応しています。また、不登校保護者支援の会「SUNだっこカフェ」を年3回開催し、引き続き、保護者のサポートの充実に取り組めます。	無				
18	77ページ	「コミュニティスクール推進事業」について、地域の人に学校を知ってもらう、学校も地域を知ってもらうことが必要。そのために地域コーディネーターがいるのだが、とすると学校支援ボランティアの人材紹介が主な活動になってしまっているところもあると聞く。コーディネーターが地域としっかりつながれるようなシステム作り、そのための援助も必要かと思う。学校側もコーディネーター任せにせず、地域行事への協力など地域社会で子どもたちができることを考えてほしい。	子ども育成課 学校教育課	(子ども育成課) 地域コーディネーターは、学校支援ボランティアを柱とする地域学校協働活動を推進していくために、学校のニーズや学校の情報をボランティアへ、ボランティアの意思や提案や人材の情報を学校へ知らせ、学校の実情に応じた支援活動へつなげるよう調整する役割を担っています。調整をする中で地域の実情や学校の現状を共有する機会が生まれています。地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるため、地域と学校が連携・協働する仕組みを一体的に推進するにあたり、ご意見を参考にし、より協力的な体制を築けるよう取り組みます。 (学校教育課) 学校運営協議会を核として家庭、地域との連携と協働により、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりに努めてまいります。	無				

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	修正対応		修正対応		
					子ども計画の修正対応の有無	対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
19	78ページ 取組項目表 下から2・3つ めの欄	「延長保育事業」の取り組み内容で、「児童を延長時間に保育します」 「一時預かり事業」「児童を保育所等で保育します」とあるが、どちらも就学前の子どもなので、「幼児」という表記のほうが対象がわかりやすいように思いますが、いかがでしょうか	保育振興課	「延長保育事業」「一時預かり事業」とも、利用対象者は「就学前の子ども」を意味することから、「児童」を「幼児」に修正します。	有			○	78ページ 取組項目表 下から2・3つ めの欄
20	81ページ	子育て家庭の負担軽減要望でよく聞かれるのは給食費です。子どもの育ちを身体的に考えると給食は必須で、困窮家庭は朝食がしっかりと食べられておらず、給食で栄養補給とよく聞きます。給食費の無償化によって人口増を成し得る市もあります。幼児期から学童期にかけて給食費の無償化は複数の子どもを育てる家庭にとって大きな費用軽減になります。	政策課 学校給食課	学校給食はこどもの心身の健全な発達に不可欠なものであり、栄養価の考えられた質の高い給食を提供し続けていくため、一定の保護者負担が原則として必要であると考えます。ただ、経済的負担が子育てにおける負担感の増にもつながっているとの指摘もあります。本市においても少子化、人口減少が進行中でもあり、「子育てしやすいまち」としてのブランディングとして経済的負担の軽減の観点からの給食費の無償化もその対策の一つであると考えています。しかしながら、この施策には多額の財政支出も必要であることから、財政的弾力性の維持について見直しをにつけて、定期的に効果を検証し、見直しをすることを前提とした上で、他の事業や施策との効果的な連携も念頭に、導入についての検討をしてみたいと考えています。	無				
21	84ページ	子ども、若者、子育て家庭が住み続けたい生活環境の向上を進めます、と書いてありますが、安全なまちづくりは大切ですが、それだけで住みたい、と言うには語弊があるかと思えます。日本は基本的に安全な街が多いので。 子育て世代がや若者が住み続けたい、と思ってもらうには大型屋内プレーパークのような施設や中高生が安心して集える「サードプレイス」があると、街としての魅力が一気に向上すると思われる。 ※ファーストプレイス：第一の居場所である家。セカンドプレイス：職場や学校など、自宅以外で長い時間過ごす場所。サードプレイス：自宅に帰る前に軽い息抜きができる場所 リフレッシュや新たなやる気を生む交流のある場所ご検討下さい。	子ども政策課	ご提案の大型屋内プレーパークの設置は、様々な場でご意見をいただいている事項であり、その有用性について一定認識もしております。しかしながら、財源等を前提とする内容であり、持続可能な財政運営を勘案する必要のあることから、計画には記載はいたしません。今後の事業展開の参考とさせていただきます。中高生が集える「サードプレイス」については、既存施設のシニア・ユースひろばも含め効果的な活用や工夫を検討していきます。	無				
22	84ページ 取組項目表 下から2つめ の欄	「さんだっこ110番のくるま」運行事業の表記について43ページ項目欄2では、「さんだっ子がやきカリキュラムの推進」と表記されています。「さんだっ子……」に統一してください。	子ども育成課	各々の事業の趣旨において、各担当課で事業名を決定しておりますので表記の統一は本計画ではいたしません。	無				
23	84ページ	子ども・若者を犯罪から守る視点として、前回の審議会でもあったようにネットリテラシー教育の充実や新設が望まれます。盗撮被害や詐欺事件に巻き込まれないようにするには？SOSはどこにだせばよいか？子どもは被害を保護者に伝えづらい心理要因があります。 また、警察や関係諸団体に子どもが直接電話連絡をすることもハードルが高いので、相談窓口もオンライン上で匿名相談可能など、より子どもに負担のない相談方法が必要です。	子ども育成課	青少年自らが悩み等を相談できる窓口として、青少年育成センターがあり、電話のほかメールでの相談にも応じています。児童・生徒及びその保護者に対して、毎年学校を通じてこの窓口への案内チラシを配布しています。	無				

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	子ども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
24	86ページ	各庁所、病院などで車いすやベビーカーを自家用車から乗り降りさせる際に、障害者駐車スペースにカーポートのような雨よけのひさしがあると非常に助かります。	各施設管理者	貴重なご意見ありがとうございます。公共施設の改修については、各公共施設の施設管理者の管理の範疇となります。ご理解賜りますようお願いいたします。	無				
25	全体	第3回子ども審議会資料4について、重点施策や新規等わかりやすく表記するとのご意見がありましたが、第4章全体においても、特筆する部分をわかりやすく表記していただければ、より伝わりやすくなるのではないかと思います。	子ども政策課	特筆部分について、わかりやすく表記するよう修正します。	有	○	第3章 P35～37		
26	全体	<p>切れ目ない支援と言うことで、まず三田市民病院がなくなれば三田市で赤ちゃんが産めるのかと気になりました。どうか子どもを出産できる施設と産科医の確保をよろしくをお願いします。</p> <p>乳幼児期～小学校まではとても手厚いのでこの支援を続けて頂きたいです。</p> <p>普通に学校に通えてる子どもたちへの支援は充分に出来てると思います。ただ発達障害・不登校に対する支援が中学校まではまだ相談にのってもらえるけど、高校生以降の支援が不足してるように思います。</p> <p>そして大学まで出て就職した後に引きこもる人もいます。不登校が必ずしも引きこもるわけではないけど2割ほどそうになってしまうとセミナーで学びました。切れ目ない支援がここで途切れてるように感じます。高校生以上若者アラサー・アラフォー・アラフィフの引きこもりの数は把握出来ているのでしょうか？</p> <p>アンケート結果をみましたが相談できず親がかかえこみ孤立してるように思います。</p> <p>不登校～適応障害～引きこもりは地続きで、何かしら困難をかかえ誰にも助けを求められず途方にくれている人々がいます。彼らを見逃さないようしていかないと、保育者のメンタル崩壊・家庭不和・家庭崩壊・1人親の増加・貧困の連鎖・治安悪化など大きな問題へと発展しかねないように思います。</p> <p>第四章に引きこもりへの対策 ・親への支援(心の健康推進) ・相談ボランティアの育成(セミナー) ・同じ悩みを抱える人への仲間作り ・相談窓口の発信・充実</p>	地域福祉課 子ども育成課	「ひきこもり」支援については、関連計画である「三田市地域福祉計画」に基づき取り組みを進めています。ご指摘のとおり、不登校等がきっかけとなりひきこもりに至る場合も想定されることから、P50の取組の「方向性」の1つ目に「不登校や引きこもり等の未然防止、早期発見・対応に取り組めます」と記載をしております。ご意見については、今後の事業展開の参考とさせていただきますとともに、令和7年度から本市での包括的な支援体制の構築を目指してスタートする重層的支援体制整備事業とも連動しながら、包括的に困りごとを受け止め、支援する仕組みづくりを推進していきます。	無				

No	ページ番号/行	修正内容・意見等	関係課	意見に対する回答	子ども計画の修正対応の有無	修正対応		修正対応	
						対象のページの取組の「方向性」の記載に加筆・修正する(○)	ページ番号/行	取組項目の内容を修正する(○)	ページ番号/行
27	全体	<p>・ひとり親への支援も経済的な支援や就業支援だけでなく、SNSを使って積極的に発信し、支援にたどり着けるようにしたり、メンタル面のサポートや孤独にならないよう人と人がつながりやすくする場所の提供。</p> <p>・多世代交流の場をフラワータウンだけでなく、(ウッディなら例えばワクチン接種したエルムプラザのビルとか利用できないでしょうか?)各自治体の施設や市民センターを活用して、お出かけふらっとの多世代バージョンの企画などの政策を追加して欲しいです。</p> <p>広報三田で、こども食堂や不登校・引きこもり支援など特集をくんでいたのととても良かったです。</p> <p>広報・SNSによる発信で相談先を見つけられない人と支援先を繋げる。困り事コンシェルジュのような部署があればと思いました</p>	子ども政策課 子ども家庭課	<p>分かりやすい情報発信や、支援を必要とする人を支援先に繋げる手法について、先進事例を研究しつつ、取り組みを進めてまいります。</p> <p>多世代交流の場づくりのアウトリーチについては、一手法として、今後の事業展開の参考とさせていただきます。</p>	有	○	44ページ 方向性を修正	○	46ページ 取組項目表 下から2つめの欄
28	全体	<p>子育て満足度No.1の自治体の子育てホームページをみた時、トップページの一番目につくところにどーんと『相談したい方』とボタンがあり、この市は相談しやすく悩んである人を見逃さないよう頑張ってるなと感じました。</p> <p>三田市のホームページも以前より見やすくなりましたが、相談しやすいかといえばそうでもなく…三田市のLINEの子育てからリンクに飛んでも少しわかりにくかった。</p> <p>広報三田にもたくさんの電話番号がのっているものの心理的に電話相談へのハードルがとても高い。私自身、電話がとても苦手で、携帯に相談窓口の電話番号登録までは出来るけどかけたことがない。過去に相談して嫌な思いがあって相談しても無駄とってしまったり、(市役所に知人がいて)知ってる人に知られたらどうしようと不安に思ったり、相談してもどうせ無駄だろうとあきらめたり、平日の昼間に相談する時間がなかったりで本当に難しい。</p> <p>三田市のブルーサンダースの動画をYouTubeでみました。あんな風に周りが気づいて声をかけてあげられたらいいのですが、公的な支援は自分から積極的に声をあげない限り得られないのが現状。</p> <p>困っていても相談したくても声をあげられない人(子ども)が『誰1人取り残されず』支援につながる人と人をつなぐシステムづくりを三田市子ども計画に希望します。</p>	子ども政策課 地域福祉課	<p>「相談したい」と思っている人に、必要な情報を届ける手法については、本市としても課題を認識しているところです。多様なデジタルツール等を活用した分かりやすい情報発信や相談支援のあり方について先進事例を研究し、取り組みの強化を図ります。</p> <p>地域、学校、関係機関との密な連携を図りながら、相談したくても声をあげられない子どもの早期把握・支援に取り組むとともに、令和7年度から本市での包括的な支援体制の構築を目指してスタートする重層的支援体制整備事業とも連動しながら、包括的に困りごとを受け止め、支援する仕組みづくりを推進していきます。</p>	有	○	44ページ 方向性を修正	○	46ページ 取組項目表 下から2つめの欄